

■ 事業進捗状況チェックリスト 区の見解一覧

進捗状況評価 判定基準

A：実施した（アクションがあった） B：検討した（アクションに向け準備した） C：実施しなかった。予定通りにいかなかった（アクションがなかった）

[1] 緑の資産の保全と継承

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	Ⅱ 期 31-33	Ⅲ 期 34-37	事業概要等	【令和 3 年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和 4 年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
1-1 板橋区緑の保全方針による樹林地等の保全											
No.102	市民緑地制度の活用				一般開放が可能な民有緑地への制度の活用を進めます。	増減なし 新たな市民緑地を打診・検討中	C	市民緑地の増減なし 新たな市民緑地を打診・検討中	C	【102-1】 No.102の市民緑地やNo.103の樹林地、竹林を増加させることは簡単ではないので、進捗評価としては厳しくならざるを得ないと思う。 個人レベルではできない取り組みなので、今後、区の緑の保全をしつつ活用方法を検討し、行政が主体となって進めていただくことを期待します。	【102-1】 区としても、緑確保の総合的な方針に基づいて緑の確保に努めてきました。しかしながら、土地の確保は所有者の意向にもよるため、容易ではありません。今後も土地の動向に注視しながら、確保の可能性を探っていくとともに、候補地が見つかった場合には、活用方法についても検討していきます。
No.103	保存樹林・竹林制度の運用				良好な樹林地等の保全を支援する制度として運用します。	保存樹林:30,462.57㎡ 保存竹林:1,268.86	C	R4.12末時点 保存樹林:30,462.57㎡ 保存竹林:853.99㎡	C	【103-1】 No.102の市民緑地やNo.103の樹林地、竹林を増加させることは簡単ではないので、進捗評価としては厳しくならざるを得ないと思う。 個人レベルではできない取り組みなので、今後、区の緑の保全をしつつ活用方法を検討し、行政が主体となって進めていただくことを期待します。 【103-2】 令和3年度から評価は全く変わっていません。この施策は緑地所有者の民間企業や個人に頼るところが多く、現状の経済状況や世代交代が進み樹林等の土地を保持し続ける余裕は無い、非常に難しい時代にあると思います。極端な話ですが、例えば公用地として買取るとか大幅な税制改革等が行われなければ樹木林は消滅してしまうと思います。	【103-1】 現在は世代交代の過渡期であり、解除申請理由の多くは土地の売買です。まとまった樹林・竹林は緑化指導における優遇を受けることができるため、土地所有者に案内を行っています。 【103-2】 緑確保の総合的な方針に基づき、土地の取得も検討しています。また、税制改正については、引き続き要望していきます。
No.104	樹林地管理方針の検討				生物多様性向上に向け公園内樹林地の維持管理手法を検討します。	内容をブラッシュアップしながら、管理方針を定める素案を引き続き作成中	A	今年度中の策定に向け作業中	A	【104-1】 関係部署や都や・国との調整は長期的な取り組みになると思うが、緑の保全を未来へつないでいくために、評価に拘らず継続していただきたい。	【104-1】 「板橋区樹林地管理方針」（令和 5 年 3 月 2 8 日決定）に基づき、維持管理手法を検討していきます。
No.105	税制改正など国・都への要請				都市部の貴重な樹林地保全に向けた税制改正等を要請していきます。	継続（特別区長会要望）	B	継続（特別区長会要望）	B	【105-1】 関係部署や都や・国との調整は長期的な取り組みになると思うが、緑の保全を未来へつないでいくために、評価に拘らず継続していただきたい。	【105-1】 要望を継続していきます。
1-2 歴史ある大径木の保全											
No.106	保存樹木制度の運用				大径木の保全を支援する制度として運用します。 ※ 名木等への助成強化を検討します。	R4.4.1現在1,706本名木等への助成強化について検討中	C	R4.12月末:1692本 （新規指定15本、解除:29本） 保存樹木等調査の実施	A	【106-1】 保存樹木の管理は大変だと思う。所有者が積極的に伐採決断をしなくてすむような行政支援をしつつ、安全面を優先とする対応を今後も継続していただきたい。 【106-2】 残すべき大径木の保存について、前述のように樹木の管理費が所有者にとって大きな負担になっており、毎年の管理費の捻出が困難でやむなく伐採する事例が多く、つい最近も、幹回り3.6m以上、樹高28mの樹木の地上部伐採を行ったばかりです。周辺住民の方々の事情も分かりますが、毎年手入れを行っていれば避けられる事例が殆どだと思います。大径木の保存に対しては、当該樹木の保存に必要な補助金を設定することが必要だと思います。特に神社等で共同管理（町会等）を行っている場合は難しいと思います。	【106-1】 健全な保存樹木等の解除申請は、主に土地売却に伴う建築物の建替が起因しているので、緑化計画に係る優遇措置を案内して、存置を促していきます。 【106-2】 都市化が進み、限られた財源の中で、効果的な助成金の分配方法に大きな課題を感じています。本推進会議の中で解決方法の手がかりを掴みたいと考えています。
No.108	保存生垣制度の運用				緑の街並みの保全を支援する制度として運用します。	R2末:3,302.60m （R2年度:新規指定7.0m、解除:46.6m） R3.12月末:3,263.90m （新規指定44.2m、解除:82.9m）	B	R4.12月末:3225.1m （新規指定88.7m、解除127.5m）	B	【108-1】 生垣の新規登録があったのは、支援制度の認知度が上がったと受け取れるので、その点は素晴らしいと思う。	【108-1】 引き続き新規登録に努めています。
1-3 板橋らしさを代表する緑の景観の保全											
No.110	<u>板橋十景・石神井川桜並木の魅力向上</u>				桜並木の維持保全、ライトアップ等による魅力向上に取り組みます。	中止（新型コロナウイルス感染症拡大による影響）	B	R5.3月下旬から4月上旬まで桜のライトアップ予定 実施場所：板橋周辺 （仲宿49・50及び本町28・29） 中板橋周辺	A	【110-1】 「板橋十景」の一つ、石神井川の桜並木は、子どもにとっても身近な「板橋のいいところ」としてたくさんの人に知ってもらいたい、という気持ちがあるようなので、今後も魅力ある景観保全を継続していただきたい。	【110-1】 石神井川の桜並木の魅力について、twitter等で情報発信していきます。また、新たな魅力の発見に向け、他部署と連携を図ります。


[2] 農のみどりの保全と活用

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	Ⅱ期 31-33	Ⅲ期 34-37	事業概要等	【令和３年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和４年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
2-3 農とのふれあいの推進											
No.205	農業公園等の整備		※		農のみどり保全重点地区等において、農とのふれあいの場の創出に取り組みます。 ※ 農業園の整備（赤塚五丁目・平成32（2020）年度開設予定）	赤塚植物園農業園 令和2年度完了済み。同年5月より開園	A	赤塚植物園農業園は令和2年度に整備完了済み。同年5月より開園 【農のイベントの実施】 1 農業体験プログラムの実施 落花生・ほうれん草の植付・中間管理・収穫など（小学校 3 校240人、保育園 5 園145人） 2 自然体験イベントの実施 生き物観察会、クラフト体験、ちよこつと収穫体験 3 観賞用畑（ポタジェ）での展示 Try志村みの早生大根試験栽培ほか	A	【205-1】 農のイベントについては、赤塚植物園農業園だけでなく、広報での募集を目にする機会が増え、参加した楽しかった。食育の観点、小さい子ども連れで参加できる気軽さ、砂場がある公園が減って土に触れる機会が少ない子どもたちにとっては普段経験できない体験として、子どもから幅広い世代に受け入れられると思うので、継続的に実施していただきたい。	【205-1】 今後は食育イベントの実施を含め、更に子どもたちが農に触れる機会の提供を増進していきます。
No.206	区民農園の開設				農地所有者から農地を借用し、区内農地の保全を図ります。	R02：35農園3.9ha R03：30農園3.4ha	B	R03：30農園3.4ha R04：31農園3.7ha	A	【206-1】 区民農園を利用している知人の畑を見学させてもらい、区画も思ったより広く各々が工夫して楽しんでいる様子が分かった。区内約30ヶ所で開設しても希望者が多くて大変人気のようなので、今後も維持、保全される事を期待します。	【206-1】 区民農園の利用希望者が多い一方で、年々農園数や農園区画数が減少傾向にあります。今後とも、区民農園用地確保に向けて積極的に農地所有者に働きかけることや、今後の区民農園のあり方の検討を深め、区民農園を持続的に運営できるよう努めていきます。
2-4 農福連携の取り組み											
No.208	農福連携の取り組みの検討				障がい者福祉の視点から農との連携の取り組みについて検討します。	令和3年11月13日・14日に実施された「令和３年度いたばし野菜 秋のマルシェ」にて農福連携事業を展開している事業者において栽培された水耕栽培農産物（リーフレタス・ハーブ・ラディッシュ）の配布や事業PRを行った。 （参考） R2.8 ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋」開設 R3.10 ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋第２」開設 R3.10 ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋第２」開設 ※農園開設にあたり誘致や補助金交付などは行っていない。	A	R2.8 ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋」開設 R3.10 ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋第２」開設 ※農園開設にあたり誘致や補助金交付などは行っていない。	A	【208-1】 板橋区の施設ではないようだが、高島平に農福連携のカフェがあり、新鮮な産直野菜の販売も行っている。料理や雰囲気も良く、作り手・サービス提供者として働く障がい者の方を身近に感じ、また利用したいと思う店だった。区内にこのような場所が増え、農との連携を通して障がいを持った方と利用者の接点が増えると思う。	【208-1】 区内の福祉施設においても施設内で野菜を栽培し、併設してあるカフェでの提供もしくは直接販売している取組を行っている事業所もあります。地域にも根差したカフェで利用者も多いです。障がい者が野菜を作るという取り組みだけではなく、その後の販売や活用を通じて、地域と関わっていくことは重要な視点であると認識しています。引き続き、本事例に限らず、農福連携を通じた地域活動につながる取り組み事例を研究していきます。




[3] 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

3-1 エコロジカルネットワークの形成											
No.302	ビオトープの整備・管理				ビオトープの新規整備については、良好な日常管理が見込める箇所について進めています。	新規設置：緑小・舟渡小 エコポリスセンターに設置しているビオトープについては、整備・管理を行い環境学習等で活用している。	A	増減なし エコポリスセンターに設置しているビオトープについては、整備・管理を行い環境学習等で活用している。	B	【302-1】 ビオトープの整備・管理について、学習を目的とした学校施設内と自然を楽しむための規模のビオトープを検討して欲しいと思います。荒川河川敷の生物生態園をもう少し自然を楽しむ場所にはできないでしょうか？ 半世紀前の荒川河川敷を復元し、子供たちが小魚を釣ったり、草花を摘んで王冠を作るなど、浅い水辺で遊んだりしていた自然の風情を取り戻すことが出来れば本当の意味の自然学習の場所を提供出来るのでは無いでしょうか。	【302-1】 生態園には魚や植物の採取が可能なエリアがありますが、まだ広く認知されていない面もあるため、区民の方へのPRに努めつつ、イベント等を含めて生物生態園の活用を検討して参ります。 学校への新規整備については、引き続き検討していきます。
No.303	自然環境実態調査の実施				区民の協力を得ながら、区の自然環境の把握に努めます。 「緑地・樹木の実態調査」「湧水調査」（5年毎調査）	湧水地点数調査 なし（次回予定：R５） 石神井川生物調査（白子川と隔年で実施） 区民参加型いきもの情報共有事業（R3年度終了）	A	【湧水地点数調査】 なし（次回予定：R５） 【白子川生物調査】 （石神井川と隔年で実施） 【区民参加型いきもの情報共有事業】（R4年度から半年ごとに実施） 区民からいきもの写真を投稿してもらい、投稿結果を区ホームページ、動画、パネルにして公開している。 【緑地・樹木の実態調査】 調査時期対象外（R6年度実施予定）	A	【303-1】 区民参加型の事業は、参加者の自然環境への意識をより高める事ができ、とても有益だと思う。自分が参加して体験したことは誰かに共有し、そこから広がって新たなサイクルが生まれるので、色々なジャンルで継続的に実施される事を期待します。 【303-2】 エコポリスセンターの講座で、区の環境政策課の方が講師となり、石神井川や赤塚公園の湧水の水質調査（実際に水を汲み上げて透視度や酸素量の測定など）をする回があり興味深かった。著名な方の講演も良いが、区の職員に自然に関するプロフェッショナルがいて、その方の話を聞けるのは、区の自然をより身近に考える事が出来て興味深いと思う。	【303-1】 区民参加型いきもの情報共有事業は原則1ヶ月間で季節ごとに行っています。その理由として、春の場合は植物が多い、夏の場合は昆虫が多い、冬の場合は野鳥が多いというように生き物の生息時期が季節ごとに変化するためです。募集する動植物については園芸種以外であれば区内に生息・生育するものは全て報告として受け付けておりますので今後も継続していきたいと考えております。 【303-2】 引き続き、区の職員による区民に分かりやすい講座を提供していきたいと考えております。

[3] 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	Ⅱ期 31-33	Ⅲ期 34-37	事業概要等	【令和３年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和４年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
3-2 区の花ニリンソウなど山野草の保全											
No.305	区の花ニリンソウの保全とPR				区の花ニリンソウの保全とPRを通じ、自然環境保全への意識啓発を進めます。	ニリンソウガイドツアー ニリンソウ月間 新型コロナウイルス感染拡大により、5月に実施したグリーンフェスタ内で実施予定であった、ニリンソウ保全グループの表彰（小豆沢公園愛護協力会）については実施しなかった。	A	1 ニリンソウガイドツアー 緑のガイドツアーニリンソウコースの実施 2 ニリンソウ展示 区役所 1 F情報スペースにて、赤塚植物園で栽培したニリンソウの鉢植えや紹介パネルの展示 3 ニリンソウ月間 都立赤塚公園SC行事への後援	A	【305-1】 区の花がニリンソウと名前は知っていても、選定された時期や経緯（昭和55年に緑の保全と緑化推進のシンボルとしてニリンソウを区の花に選定/HP記載）や、なぜ保全活動が必要なのか（平成22年版「東京都の保護上重要な野生生物種」リストでは、ニリンソウが区部における準絶滅危惧種にリストアップ/HP）まで気になっている人は一部だと思う。 【305-2】 野草を観光キャラクターにしている自治体は全国でも少ないらしいので、ニリンソウの花と現状を知ってもらい、40年以上前から緑の保全に取り組んでいる板橋、としてのPRや意識啓発につなげられるのではないかな。	【305-1】 ニリンソウ月間の際に、HPやツイッター等で、より多くの区民に広めていきます。 【305-2】 引き続き、ニリンソウ月間において、都立赤塚公園ニリンソウ自生地の区民ボランティアによる保全活動をガイドツアーをはじめ、HPやツイッター等で、より多くの区民に広めていきます。

[4] うるおいのある水辺と湧水の保全

4-1 荒川将来像計画による自然地の保全と活用											
No.401	自然系ゾーンの整備				（Ⅰ・Ⅱ期）生物生態園利活用推進 （Ⅲ期）中規模自然地の整備	整備内容及び利活用について検討中	C	整備内容及び利活用について検討中	C	【401-1】 3-1のピオトープの箇所でも述べましたが、自然系ゾーンの整備は正に半世紀前の河川敷の再生でと考えています。現在の生態園は不特定多数の人が楽しめる場所になっていないような気がします。これからの板橋の緑化事業の重要なポイントになる場所だと思っています。	【401-1】 現段階で河川敷の具体的な整備計画はありませんが、関連部署と連携し、より多くの方楽しんでいただける自然地を目指して検討を進めます。
4-2 親しめる水辺づくり											
No.402	親水公園の活用				親水スポットの魅力向上に取り組みます。	継続	B	継続	B	【402-1】 親水公園の有効利用として、問題に思うのは、集客力の確保だと思います。施設は作っても、どこあるかわからない。また、荒川河川敷の施設は交通の便が整っていないので家族連れは呼び込むことが難しい状況だと思います。	【402-1】 twitter等を用いて、親水公園の魅力発信を行っています。荒川河川敷内の交通の利便性については、既存駐車場を有効活用した上で、自然確保の観点も含めて利用状況を注視していきます。
4-3 湧水の保全と活用											
No.403	湧水保全地域における湧水の保全と活用				湧水の保全とともに、見える化に向けた検討を進めます。	湧水量測定継続（毎月一回） 場所 ①不動の滝②赤塚城址下③志村城山公園④御手洗池	B	【湧水量測定継続】（毎月一回） 場所 ①不動の滝②赤塚城址下③志村城山公園④御手洗池 動画4本、ツイッター 3 回、オンラインイベント2回、パネル展示 3 回 湧水の紹介や雨水貯留槽設置費補助金など湧水を守る取り組みについて、動画を作成しYouTube掲載したり、ツイッターやオンラインイベントで紹介した。また、パネル展などで立体地図の展示やチラシの配布を行い普及啓発を行っている。 また、緑と公園の推進会議内において、赤塚地域の湧水スポットの活用を検討した。	A	【403-1】 湧水の保全と見える化は、「板橋区内に今も湧水が！」的な意外性から、とりまく環境の保全へと広く知ってもらうためのきっかけになると思う。 水量は減っても、歴史的な背景を紹介し、環境や雰囲気を失わないような活用方法がされると良いと思います。 【403-2】 湧水の調査継続とともに今年度は普及啓発及び緑と公園の推進会議での湧水スポット視察・活用検討と進展があり有意義に思う。更に、自然の水循環を取り戻すための試みとして、湧水地域に“雨水浸透ます”などの設置補助を行う資源環境部(環境政策課 自然環境保全係)とも連携し、実際に湧水を保全し復活させていく道筋が構築できれば未来にも湧水の期待を繋げて行くことができるのではないかな。	【403-1】 「湧水」に着目して、地形や歴史、昆虫や植物など新たな切り口で、ツイッターなどのSNSを活用し、湧水の魅力を紹介していきたいと考えております。 【403-2】 環境政策課では、今後も湧水の調査及び湧水を保全するために個人宅等で雨水浸透ますや雨水貯留タンクを設置する際の補助金交付事業を継続していきたいと考えております。また、未来に湧水を残すためにも、水循環が保つことができる事業運営を行っています。 第五期推進会議での現場視察の実績と見えた課題を、第六期推進会議で活かしていきたいと考えております。

[5]みどりの創出による快適なまちづくり

事業別（下線：重点プロジェクト）					事業概要等	【令和３年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和４年度回答】 取り組み状況のまとめ	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
5-3 みどりで快適・安全なまちづくり											
No.507	屋上緑化・壁面緑化助成制度の運用				屋上緑化、壁面緑化工事に対して助成支援を進めます。	緑化指導による屋上緑化完了実績911.36㎡（R2）688.54㎡（R3）壁面緑化・屋上緑化助成実績R2：壁面緑化0件屋上緑化0件R3：壁面緑化0件屋上緑化1件	C	壁面緑化・屋上緑化助成実績R4.12月末時点：共に0件	C	【507-1】 屋上緑化・壁面緑化の助成制度の運営について、以前は何件かありましたが、現在屋上緑化に関する問い合わせはほぼ無くなりました。当初の屋上緑化相談の事例を紹介しますと4階建ての既存ビルで屋上面積150㎡程度で、屋上の緑化の相談を受け現地調査を行なった結果 屋上面状態が悪く、防水処理から植栽基盤・土中排水等、多種の工程が必要となり、工事金額が相談主の想定を大きく上回り助成を考えたも実施できませんでした。現状では既存建物の屋上緑化は難しい状況です。 【507-2】 相談者の認識もある程度の面積の緑化を考える方が多く、ベランダや中階のポケット庭園等ちいさなスペースの緑化を薦める方が利用者が増えると思います。	【507-1】 屋上緑化は、都の太陽光パネルの義務化によって今後大きな影響を受けると考えられます。屋上・壁面緑化は建物の表面温度の低減によるエアコン電力の低減、建物の膨張・収縮による劣化の軽減、潤いや安らぎ感の創出等、省エネを通じた環境保全効果が期待される。こうした効果を広く周知することで、壁面緑化等の助成制度の活用を促していきます。 【507-2】 区は持続性のある緑化を推進しており、また、緑化基準の改正に伴い、原則すべての建築物の建て替えに対し、緑化の義務化及び接道部緑化の義務化を課しているため、今後は目に触れる緑化の促進を期待しています。引き続き、実効性のある施策を適時適格に展開していきます。
No.509	校庭の芝生化				メンテナンスのノウハウを蓄積しながら、芝生化の推進を図ります。	芝生化面積8,972㎡（前年度から増減なし）	B	芝生化面積8,972㎡（前年度から増減なし）	B	【509-1】 校庭の芝生化について、校庭芝生の最大の問題点は、芝生化後の管理作業です。すべての施設についてもいえる事ですが、芝生化後の管理作業の重要性を十分に理解してもらった上で進めるべきだと思います。芝生化された学校では管理体制の構築された学校と教師や用務主事の方が管理されている学校で大きな差が生じます。 【509-2】 校庭の芝生化は緑地面積の増加と言う点では効果的な方法であるのは否めません。今 自然環境の問題（ＳＤＧｓ）がクローズアップされ学校教育にも取り上げられている中で緑の重要性や芝生地で遊ぶ楽しさを実感するだけでなく緑を育てる事の大切さを学ぶ教材に成れば後の緑化推進にも大きな力になってくると思います。	【509-1】 校庭芝生化後の維持管理の質により芝の状態に大きな差異が生まれるのはご意見の通りです。学校への新規整備については、学校要望・地域要望があった際に検討するところですが、その際にはまず施設管理者である学校、及びその地域の方々の芝生維持管理に関する協力を得ることができるよう、丁寧に説明を行ったうえで事業の推進を行っていくべきと考えます。 【509-2】 ＳＤＧｓにおける環境保全目標が示されているなか、ご意見いただいたとおり緑を育てることの大切さを学ぶ場というのは非常に重要であると考えます。現在板橋区内の芝生化が行われている学校においては、児童・生徒・教職員を受講者として、芝生のポット苗づくりから移植までを行う講習会を実施しております。本件を含む芝生維持管理事業を通して、緑を育てることの大切さを学ぶ場を提供したいと考えております。

[6]公園の整備とリニューアル

6-2 公園の改修整備											
No.603	公園の改修整備				地域ニーズや社会のニーズに応じた公園のリニューアル整備を進めます。	改修整備なし（設計中）	B	改修：2箇所 三葉児童遊園歩道改修工事 徳丸公園こどもの池改修工事 委託：２件 高島平九丁目第二公園基本実施設計委託 東坂下二丁目公園基本実施設計委託	A	【603-1】 広場の整備で提案があります。赤塚地区の政策の一環として赤塚城址の復元は如何でしょうか？都立赤塚公園の赤塚城址後に赤塚城を史跡兼テーマパークのような施設として計画はできないでしょうか。	【603-1】 都立赤塚公園の整備については東京都管理のため、計画があった場合にご意見を都に伝えることしかできませんが、その他赤塚地区の区立公園の整備については、近隣の皆さまのご意見を伺いながら地域の歴史等も踏まえた計画を検討して参ります。

[7] みどりを楽しむライフスタイルの推進

7-1 みどりとふれあう機会づくり											
No.701	グリーンフェスタの開催				緑の大切さをPRするイベントとして、毎年春季に開催します。	R3 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。ただし、開催予定だった期間に屋外パネル展示及び板橋区の公式YouTube「チャンネルいたばし」にて動画の配信を行った。	A	R4.5月13日～14日実施 2日間の来園者数：延べ2593人 ※コロナ禍により3年ぶりの開催 1 開会セレモニー※区長挨拶 2 クラシックコンサート 3 収穫体験 4 クラフト体験 5 出張こども動物園 ほか	A	【701-1】 先日、赤塚新町公園で開催された『おそとカフェ』を見学に行って来ました。元々は成増社会教育が行っていた事業が現在は地元地域団体に引き継がれて運営されている事業で、区防災課や公園課長も個人参加で楽しい会場が出来上がっていました。赤塚新町公園はそれほど広い公園ではありませんが、それでも地域のイベント会場として十分に利用できることを学びました。 【701-2】 一から地域団体がイベントを立ち上げるのは容易ではありませんが、初期段階を行政が起因することで、身近なイベントを地域が運営することが出来る道筋を見た気がします。	【701-1】 グリーンフェスタを実施する際は、区内で活動する地域団体との連携を進めていきます。 【701-2】 グリーンフェスタをはじめ、赤塚植物園で実施する収穫体験等の事業において、区はボランティアの協力を求めています。事業協力に関心のある地域団体があれば連携を進めたいと考えています。

[7] みどりを楽しむライフスタイルの推進

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	Ⅱ 期 31-33	Ⅲ 期 34-37	事業概要等	【令和 3 年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和 4 年度回答】 取り組み状況のまとめ	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
No.702	緑のガイドツアーの開催				季節に合わせた緑の見どころを紹介するガイドツアーを開催します。	R2：5 回実施	A	R 4：5回実施 4月5日ニリンソウコース 参加者18名 6月30日小豆沢コース 参加者18名 10月18日中台コース 参加者15名 11月1日赤塚コース 参加者13名 11月29日小茂根コース 参加者17名	A	【702-1】 ガイドツアーに地域住民のお話を盛り込んだり、地元の産業を紹介したりなど、自然を通して地元振興にも通じていけるガイドツアーにも期待したい。	【702-1】 緑のガイドツアーは、主に季節の植物の見どころを紹介する事業です。参加者により一層、楽しんでもらうために、観光事業を参考にしたガイドを盛り込めるよう努めています。
7-2 みどりについて学ぶ機会づくり											
No.704	赤塚植物園の緑の講習会・展示会の開催				緑化啓発の拠点施設として、各種園芸講習会、展示会を開催します。	R3現在：5 回実施	A	1 講習会 R4.12末時点:3回実施（R4年度末まで2回予定） 楮のミニクリスマスツリー作り、多肉植物の寄せ植え、正月飾り作り 予定：ケヤキ苗の苔玉作り、バラの冬期剪定 2 展示会 R4.12月末時点:4回実施（R4年度末まで1回予定） 写真展 2 植物画展 1 予定：写真展 1	A	【704-1】 赤塚植物園の講習会は委員になって2度参加し、正月飾り作りは材料が豊富で全て植物園と農業園でとれた物だったのと、材料ごとに植物の名前が明記され、ディスプレイの仕方や参加者が自由に素材を選ぶ事が出来るのも良かったです。十分な数のスタッフが配置されていたので、質問がしやすい講習会でした。ニリンソウの講習会でもらったニリンソウは1年で発芽し、花を咲かせたのも嬉しかったです。	【704-1】 幅広い年齢層に興味関心を持ってもらえるような新しい講習会も検討していきます。
No.705	環境教育の推進				板橋区環境教育推進プラン2025に基づく取り組みを進めます。	環境教育推進プラン2025に基づき、区内小中学校や保育園、幼稚園などに、環境教育プログラム（身近な自然等に関するプログラムもあり）を提供し、各学校園で活用いただいている。また、各学校・園では、外部人材を活用した環境教育にも力を入れている。さらに、エコポリスセンターでは、環境教育を担える人材の育成として、区民向けの指導者養成講座や教員・保育士等に向けた研修も行っている。	A	環境教育推進プラン2025に基づき、区内小中学校や保育園、幼稚園等に、環境教育プログラム（身近な自然等に関するプログラムもあり）を提供し、各学校園で活用いただいている。また、各学校・園では、外部人材を活用した環境教育にも力を入れている。さらに、エコポリスセンターでは、環境教育を担える人材の育成として、区民向けの指導者養成講座や教員・保育士等に向けた研修も行っている。 また、生物多様性・農とのふれあいに関するイベントを実施している。 1 農業体験プログラムの実施 落花生・ホレンソウの植付・中間管理・収穫（小学校 3 校240人、保育園 5 園145人） 2 自然体験イベントの実施 生き物観察会、クラフト体験、ちよこつと収穫体験 3 観賞用畑（ポタジェ）での展示 Try志村みの早生大根試験栽培ほか	A	【705-1】 エコポリスセンターの出前授業は、保育園等に出向き、園で育てている野菜や昆虫なども取り上げ、年齢にあった工作等を組み入れながら身近な自然や生き物に目を向けるような環境講座をしている。区の取り組みとの相乗効果で、今後、より幅広い年齢層への環境教育と指導者育成が充実する事を望みます。	【705-1】 エコポリスセンターでは、出前講座の他にも、指導者養成事業「板橋エコみらい塾」を実施しており、将来環境教育の担い手となる人材の育成にも力を入れています。今後は、本事業によって指導力を培った団体に、新たに出前講座を実施していただく予定です。一方区では、環境啓発や学習に関する動画配信を行っており、ライブ配信の実施も予定している。これらのデジタルコンテンツを出前講座等にも活用することで、「アウトリーチ＆オンライン」により幅広い地域と年齢層に環境学習の機会を提供できると考えています。

[7] みどりを楽しむライフスタイルの推進

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	Ⅱ 期 31-33	Ⅲ 期 34-37	事業概要等	【令和 3 年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和 4 年度回答】 取り組み状況のまとめ	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
7-4 区民提案による企画支援制度の検討											
No.709	区民提案による企画支援制度の検討		※		※ 区民や事業者の自主的な活動を支援する仕組みを検討します。	検討中	C	検討中	C	<p>【709-1】 区民の自主的活動への支援を、初めから制度化して取り掛かろうとしても、「行政施策の公平性」の観点からおそらくどれ一つとして成り立たないし、「行政施策の無謬性」を考えたら、なおさら議題として「検討中」のままに残されるだけである。再々提案しているように、推進会議を基盤として、関係行政と関係区民が協働する「プロジェクトチーム」を立ち上げてまず試行 → 振り返り → 試行 → 施策化を繰り返して行くことが、必要だと思う。</p> <p>具体案 「赤塚公園のニリンソウ保護活動」 「赤塚公園生物多様性保全事業エリアの保護活動」を組織する他、区内で最も緑が残っている赤塚地域の自然保護活動を活発にする 「区の花ニリンソウを探す全区調査」 緑道・公園に「野草保護エリア」をつくろう 「板橋区みどりと自然のデータバンク」の立ち上げ</p> <p>【709-2】 区民提案による企画支援という制度の概要を知りたい。例えば、公園花壇の花づくり以外でも、公道の小さな敷地(すでに土壤に囲いはできているが何もされていない場所)や河川敷の手入れされていない芝生などに花を植えるなどの提案を、例えば子ども食堂やボランティア団体を通してできないか。(クリアしなければいけない問題もあると思うが、道端や公共の小さな花壇スペースが街の美化や人々の癒しにも繋がるので検討の余地はあるのでは？)</p> <p>【709-3】 助成＝苗を渡す、という時代もあったが、今は「自分たちが作る」というのが主流となっています。ただ、助成できる額が不透明です。団体と計画の時から調整を図り、どのような計画でどの程度の費用がかかるのか、それに対して区がどの程度助成できるのかを明確にする必要があると思っています。</p> <p>【709-4】 ボランティア団体同士の横連携がないことが課題だと感じています。「勉強会」等、交流する機会を設けている例もあります。</p> <p>【709-5】 いきなり「皆さんで公園を使ってみてください」と言われても難しいため、きっかけとしてイベントをやってみる。その際に、地域の団体や事業者、商店街などに声をかけて、自分たちで何かやってみる。そのような緩やかな流れで始めてみるのが良いのではないのでしょうか。</p> <p>【709-6】 公園の花壇だけに留めず、まちづくりにも視点を広げてほしいです。恵庭市でとても良い事例があります。</p> <p>【709-7】 母が商店街の街灯にぶら下げている花の管理をしていましたが、義務感が出てきたら楽しくなくなったのか、続けられていないようです。自分でホームセンターに苗を買いに行っているようですが、そのような費用に対する援助があると助かります。</p>	<p>【709-1】 皆さまからいただいた意見を精査して検討していきたいと考えています。</p> <p>【709-2】 皆さまからいただいた意見を精査して検討していきたいと考えています。</p> <p>【709-3】 現在の助成は、公園・区道の花壇での花づくり活動を行うグループに対して現物支給するものです。 今後は、新しい仕組みを検討していくとともに、団体から個別の要望があった際にも検討を進めていきます。 まず、現在活動している団体と、新しい制度の構築に向けて検討していきたいと考えています。</p> <p>【709-4】 花づくり活動に係る団体間の情報共有を目的に、「花づくり便り」を作成し、各団体に配布しています。</p> <p>【709-5】 区でイベントを開催する際に、きっかけづくりとなることが実施できるか、組織的連携も含めて模索していきたいと考えています。</p> <p>【709-6】 恵庭市の事例も参考にいたします。</p> <p>【709-7】 いただいた意見を参考に検討を進めていきたいと考えております。</p>
7-6 みどりの情報発信											
No.714	様々なメディアを活用した情報発信				みどりがより身近なものになるような情報発信の充実に取り組みます。	ツイッター、ホームページによる情報発信を継続	A	ツイッター、ホームページによる情報発信を継続 (R4.12月時点で、ツイッターのフォロワー数が1,700人超)	A	<p>【714-1】 ツイッターは、フォローしてなくても情報収集として見る人もいるので、実際はフォロワー数より多くの人が見ていると思います。</p>	<p>【714-1】 情報発信の有用なツールなので、いただいた意見を参考に、今後もtwitterを活用していきたいと考えています。</p>

[9] 公園を使いこなす仕組みづくり

事業別（下線：重点プロジェクト）		I 期 30	II 期 31-33	III 期 34-37	事業概要等	【令和 3 年度回答】 取り組み状況	進捗状況 評価	【令和 4 年度回答】 取り組み状況のまとめ	進捗状況 評価	委員からの提案・意見等	区の見解
9-1 板橋区パークマネジメントガイドラインの運用											
No.901	公園活動コーディネート組織の導入 【再掲：みどりと人をつなぐコーディネート組織の導入】				産官学民の協働による公園運営をより活性化するためのコーディネート組織の導入をめざします。 （Ⅰ期）検討（Ⅱ期）準備（Ⅲ期）試行	指定管理者のイベントにて、商店街や近隣大学に参加してもらう構想がある。（コロナ禍によりR3は未実施）イベントから、より広い活動へと広げていくことを検討している。	B	指定管理者のイベントにて、地元大学に参加してもらった。今後は、地元商店街にイベントに参加してもらう構想がある。イベント参加から、より広い活動へと広げていくことを検討している。	A	【901-1】 実行力、発信力のある大学生に協力してもらうのは、活気も生まれ、新しいアイデアが生まれる可能性もあるため、R4年度の取り組みは大きな一歩だと思います。学生にとってもイベント等で様々な年代と触れ合う事で得る事が多いというアプローチャも出来るので、観光、教育、福祉など様々な学部へ提案することで活動の幅が広がるかもしれない。	【901-1】 指定管理者に限らず、区主催のイベントでも学校と連携していきたいと考えています。
No.906	受動喫煙防止に向けた対応				公園の特色に応じ、禁煙とする公園の設定や、受動喫煙防止に向けた対策を強化します。 （Ⅰ期）検討（Ⅱ期）試行・運用（Ⅲ期）運用	R3.4から公園条例の一部改正を施行。区立公園の全公園を全面禁煙とした。	A	R3.4から公園条例の一部改正を施行。区立公園の全公園を全面禁煙とした。	-(実施済)	【906-1】 公園内の看板等で周知されてきていると感じる。一方、公園の横で立ち止まって喫煙している人はいるため、マナー向上のために他部署との連携は継続必要。	【906-1】 他部署との連携を継続していきます。